

課題番号	LZ005
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)  
実施状況報告書(平成24年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	看護卒後教育における mid-level-provider 育成と医療提供イノベーション
研究機関・ 部局・職名	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授
氏名	井上 智子

1. 当該年度の研究目的

<p>①平成 23 年度より継続して各種会議、シンポジウム、セミナーでの検討を重ね、高度実践看護師の教育プログラム(案)を作成していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 24 年 6 月、25 年 1 月のシンポジウムと、その他にセミナーを開催する。</li> <li>・学外戦略会議、米国との国際会議を引き続き実施していく。</li> <li>・検討成果を、機関誌(Advanced Practice Nursing)の年 2 回の発行他、ホームページ等で発信していく。</li> </ul> <p>②専門看護師が mid-level provider(高度実践看護師)へと移行するための教育(e-learning と高機能シミュレータによる演習)を実施に移し、初回の修了生を輩出するために以下を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通科目(3 科目)の受講者公募、人選、ID パスの発行等を行う。</li> <li>・e-learning システムの稼働と完成に向けたシステム構築を行う。</li> <li>・共通科目(3 科目)の評価方法を開発し、評価を行う。</li> <li>・共通科目(3 科目)の教育内容について、日本看護系大学協議会の教育課程認定委員会に申請する。</li> <li>・共通科目(3 科目)修了者のための演習内容・方法について検討する(米国大学において)。</li> <li>・共通科目(3 科目)修了者の中から希望者を選定し、招聘講師による高機能シミュレータによる演習を実施する。</li> <li>・シミュレータ教育受講生等の評価方法を検討し、評価を実施する。</li> </ul> <p>③高度実践看護師が軸となって活躍する医療提供システムの検討として調査研究に着手する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先駆的実践を行っている専門看護師への聞き取り調査とデータ分析。</li> <li>・分析結果をもとに、APN を軸とした新たな医療提供システムのあり方の検討。</li> </ul> <p>④「国民との科学・技術対話」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国民との科学・技術対話」も含めた社会への情報発信として、シンポジウム、フォーラム等を企画し、実施する。</li> </ul>
---

2. 研究の実施状況

<p>①各種会議、シンポジウム、セミナー開催による、高度実践看護師の教育プログラム案の作成と成果公表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際シンポジウム 2 回、セミナー2 回、学内外戦略会議 12 回開催し、成果は機関誌ならびにホームページ上に掲載した。</li> <li>・機関誌(APN : Advanced Practice Nursing)を予定通り年 2 回発行し、全国の看護系大学等に配布した。</li> </ul> <p>②高度実践看護師共通科目 B(3 科目 6 単位分)のオンライン教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン教育のためのシステム構築と完全稼働</li> <li>・オンライン教育 1 期生として応募動機、経歴等より 166 名を選抜、ID を発行しオンライン教育を開始した。開始後の受講状況については随時 HP 上に公表し、修了者には修了書を発行した。</li> <li>・教員 3 名を米国提携大学に派遣し、招聘予定教員との打ち合わせ、事前準備を行った。</li> <li>・2 名の招聘講師、学内教員による 1 期生の中から受講修了者 28 名を選抜し、高機能シミュレータを用いた 3 日間の演習を実施し、参加者・実施者側からの評価を行った。</li> <li>・オンライン共通科目 B の評価について研究倫理審査委員会に申請し、承認を得て調査を開始した。</li> </ul> <p>③新たな医療提供システム構築のための高度実践看護を行っている専門看護師への調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門看護師への聞き取り調査については7名の面接を終了し分析続行中である。</li> <li>・新たな医療提供システムに関する調査については、聞き取り調査のデータをもとにした、研究計画書を倫理審査委員会に申請中である。</li> </ul> <p>④「国民との科学・技術対話」の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 24 年 12 月 1 日に東京国際フォーラムにおいて、一般市民に向けて、「広がる看護師の仕事 2012」を開催した。</li> <li>・国際シンポジウム 2 回、セミナー2 回(看護職者対象)を開催した。</li> </ul>
---

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計 4 件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計 2 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木吉子、井上智子、川本祐子:米国における看護補助者の実態・教育等の実情、お茶の水看護研究会誌、2012 年、6(1):105-111.</li> <li>・井上智子:ケアとキュアの融合を基盤とする看護実践の発展、日本看護科学学会誌、2012 年、32(2): 87-88.</li> </ul> <p>(掲載済み一査読無し)計 2 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子: 共通科目 B の開講に向けて、APN、2012 年、2:2-3.</li> <li>・井上智子: 再生から未来へ:看護学探究者からの発信、日本看護科学学会誌、2013 年、33(2): 1-4.</li> </ul>
<p>会議発表 計 12 件</p>	<p>(専門家向け 計 12 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子:ケアとキュアの融合を基盤とする看護実践の発展(シンポジウム I)、東京国際フォーラム、2012 年 11 月 30 日~12 月 1 日、第 32 回日本看護科学学会学術集会.</li> <li>・井上智子:これからの看護スペシャリストのありよう(看護セッション:「チーム医療時代の看護職モチベーションアップ」)、国際モダンホスピタルショウ、東京ビッグサイト、2012 年 7 月 20 日、日本経営協会.</li> <li>・Mitsue Maru, Tomoko Inoue, Yoshiko Sasaki, Yuko Kawamoto, A new method to provide basic class of pathophysiology, pharmacology and health assessment for graduate students in Japan. London, 2012 年 8 月 20 日, ICN Nurse Practitioner / Advanced Practice Nursing Network.</li> <li>・井上智子:看護学生のキャリアデザイン教育の実際と今後の構想、シンポジウム I 看護基礎教育におけるキャリアデザイン教育の現状と発展、第 22 回日本看護学教育学会学術集会講演集、92、2012 年 8 月 4 日</li> <li>・井上智子:特別講演「看護師の役割拡大と課題」石川県かほく市、2012 年 8 月 7 日、石川県看護教員養成講習事業.</li> </ul>

様式19 別紙1

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小池智子、佐々木吉子、山崎智子、内堀真弓、矢富有見子、川本祐子、青木春恵、本田彰子、井上智子：チーム医療推進における看護師と看護補助者の連携と業務分担の実態、東京国際フォーラム、2012年11月30日～12月1日、第32回日本看護科学学会学術集会。</li> <li>・川本祐子、井上智子、佐々木吉子、北村愛子：専門看護師による急性期心臓リハビリテーションのプログラム管理の安全性と効果についての検討、東京国際フォーラム、2012年11月30日～12月1日、第32回日本看護科学学会学術集会。</li> <li>・井上智子：APN大学院教育での病態、薬理、フィジカルアセスメント科目の導入における課題、看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション(事業主任研究者・連携会員)、日本学術会議看護分科会・日本看護系学会協議会、意見交換会、新大阪丸ビル、2013年3月30日、日本学術会議看護分科会。</li> </ul> <p>(うち、自主企画のもの 計4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美：日本における高度実践看護師のあり方：臨床・教育・研究からみた諸問題の検討、最先端・次世代研究開発支援プログラム－看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション－第3回国際シンポジウム、東京、2012年6月10日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美：米国 APN(高度実践看護師)の実情を踏まえた日本における APN 活動の展望と課題、最先端・次世代研究開発支援プログラム－看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション－第5回フォーラム、東京、2012年10月20日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美：高度実践看護師育成に向けた演習(シミュレーション教育)の実際、最先端・次世代研究開発支援プログラム－看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション－第4回国際シンポジウム、東京、2013年2月9日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美：オンラインコース実技演習、最先端・次世代研究開発支援プログラム－看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション－第6回フォーラム、東京、2013年3月12日-15日。</li> </ul>
<p>図書 計2件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子(総監修)：APN；看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業 機関誌2号、2012年7月、総ページ数46。</li> <li>・井上智子(総監修)：APN；看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業 機関誌3号、2013年1月、総ページ数36。</li> </ul>
<p>産業財産権 出願・取得状 況計0件</p>	<p>(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p>活動報告、平成22～25年度 独立行政法人 日本学術振興会 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)「看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション」、 <a href="http://www.adnr.jp/">http://www.adnr.jp/</a> 看護卒後教育による MLP 育成(twitter)、@apnjp 看護卒後教育による mid-level provider 育成(face book)、<a href="https://ja-jp.facebook.com/adnrjp">https://ja-jp.facebook.com/adnrjp</a></p>
<p>国民との科学・技術対話 の実施状況</p>	<p>・第32回 日本看護科学学会学術集会 最先端・次世代研究開発支援プログラム 広がる看護職者の仕事－「日本における高度実践看護師教育の具現化を目指して」看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業、2012年12月1日、東京国際フォーラム(ホール D5)において一般市民、医療従事者、看護教員を対象者として実施。マスコミ関係者、医療従事者、看護学教育に携わる者が30名程度参加し、本事業内容の報告を行い、フロアからは事業を実施することに対し、「先駆的な試みである高度実践看護師教育を是非頑張ってもらいたい」など好意的なご意見を頂いた。</p>
<p>新聞・一般雑誌等掲載 計0件</p>	
<p>その他</p>	

4. その他特記事項

## 実施状況報告書(平成24年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されず

## 1. 助成金の受領状況(累計)

(単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	82,000,000	37,800,000	30,250,000	13,950,000	0
間接経費	24,600,000	11,340,000	9,075,000	4,185,000	0
合計	106,600,000	49,140,000	39,325,000	18,135,000	0

## 2. 当該年度の収支状況

(単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	0	30,250,000	0	30,250,000	30,245,250	4,750	0
間接経費	0	9,075,000	0	9,075,000	9,075,000	0	0
合計	0	39,325,000	0	39,325,000	39,320,250	4,750	0

## 3. 当該年度の執行額内訳

(単位:円)

	金額	備考
物品費	672,890	事務用消耗品など
旅費	2,858,105	ICN APN会議・世界災害看護学会、ヘルスアセスメント科目 実習の為の見学(サミュエルミット大学)等
謝金・人件費等	15,987,787	人件費、会議出席者金、原稿執筆謝金など
その他	10,726,468	「3P科目授業」オンライン維持・保守費用、ICN/APN Network Conference 参加費など
直接経費計	30,245,250	
間接経費計	9,075,000	
合計	39,320,250	

## 4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		